

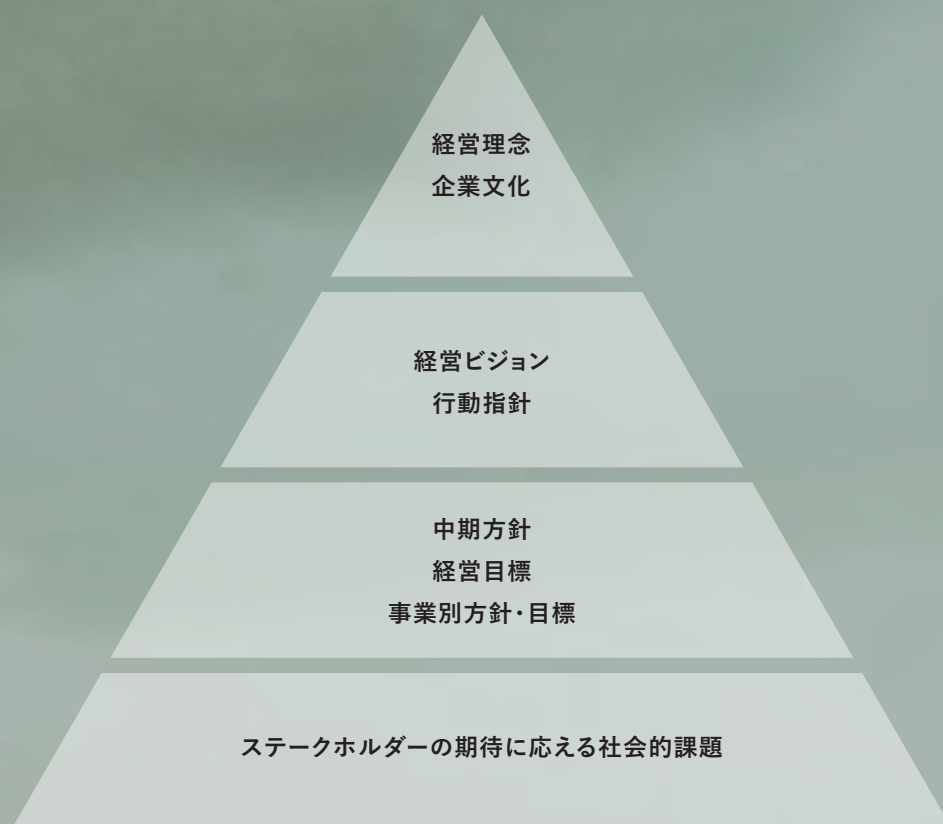


NIPPON SEIKI REPORT 2021

統合報告書

日本精機グループの理念体系

経営理念体系



経営理念

顧客の立場に立って、価値の高い製品・サービスを提供することにより、
社会の繁栄に貢献する

企業文化

「質・実・簡・迅」

当社グループでは、質・実・簡・迅の企業文化を築き上げ、
”芯から強い会社” となることを目指しています。

質・実・簡・迅 = 本質・現実・簡素・迅速（本質的なことを現実に基づきシンプルに素早く実行すること。）

Facing the future
Challenge & Change
for 2030

日本精機グループは、技術により、世界の人々に安心・安全、そして、感動を提供する
トータルソリューションカンパニーを目指します

技術

製品開発技術

顧客の要求・市場ニーズなどを汲み取り、ハードウェア設計技術(外装/回路/光学設計など)とソフトウェア技術(システム/プログラム設計など)を組み合わせ、顧客とのすり合わせにより、高品質の機能要求を満たす製品を開発する技術。

ものづくり技術

樹脂系部品の製造技術(コンパウンド・成形・印刷・塗装など)、プリント基板のアートワークや電子部品の実装技術、これら部品の組立技術、及び、生産設備・金型の設計/製造技術を保有し、グループの生産拠点で活用することで、高品質・低コストの製品をグローバルで供給可能にする技術。

データ活用技術

各機能別情報(経営情報、営業/設計/技術/製造/購買/品質情報など)を収集・加工・共有する技術、及び、情報を蓄積・分析し、事業戦略に反映していく技術。

トータルソリューション

知覚支援の革新

人が直接的に知覚できない情報を拾い上げ、人の五感を通じて適時適切に伝達する機能を継続的に進化させていくことにより、社会に安心・安全と感動を提供すること。

コア技術の進化

グループの保有する3つの技術とその構成要素となる個々の技術の進化・組み合わせにより、イノベーションを創出し続け、市場要求に適合した技術を提供し、顧客の抱える課題解決を共創すること。

ライフスタイルの革新

当たり前に行われている習慣・行動様式に代わる新しい製品・サービスを提供することにより、人々の生活に時間的余裕を作り出し、豊かな生活を提供すること。

品質維持 / 向上

行動指針

意識改革6か条

1. 原価改善に対する強い執着心を持つ
2. 現状に満足せず、改革にチャレンジする
3. 判断・実行のスピードを上げる
4. 自ら組織を牽引する気概を持つ
5. 視点・発想を変えて、粘り強く挑戦する
6. 仕組み化して組織力を向上させる



すべての人に、
安心・安全・感動を

CONTENTS

SECTION

01

日本精機グループの概要

- 05 日本精機グループ沿革
- 07 日本精機グループ概況
- 09 財務・非財務ハイライト

SECTION

02

日本精機グループの価値創造プロセス

- 11 トップメッセージ
- 17 日本精機グループ サステナビリティ方針
- 19 価値創造プロセス
- 21 マテリアリティ
- 23 日本精機グループの事業

SECTION

03

ESGに関する取組み

- 33 ESGに関する取組み
- 35 環境への取組み(E)
- 37 社会への取組み(S)
- 41 コーポレートガバナンスへの取組み(G)

SECTION

04

財務諸表

- 45 財務諸表

SECTION

05

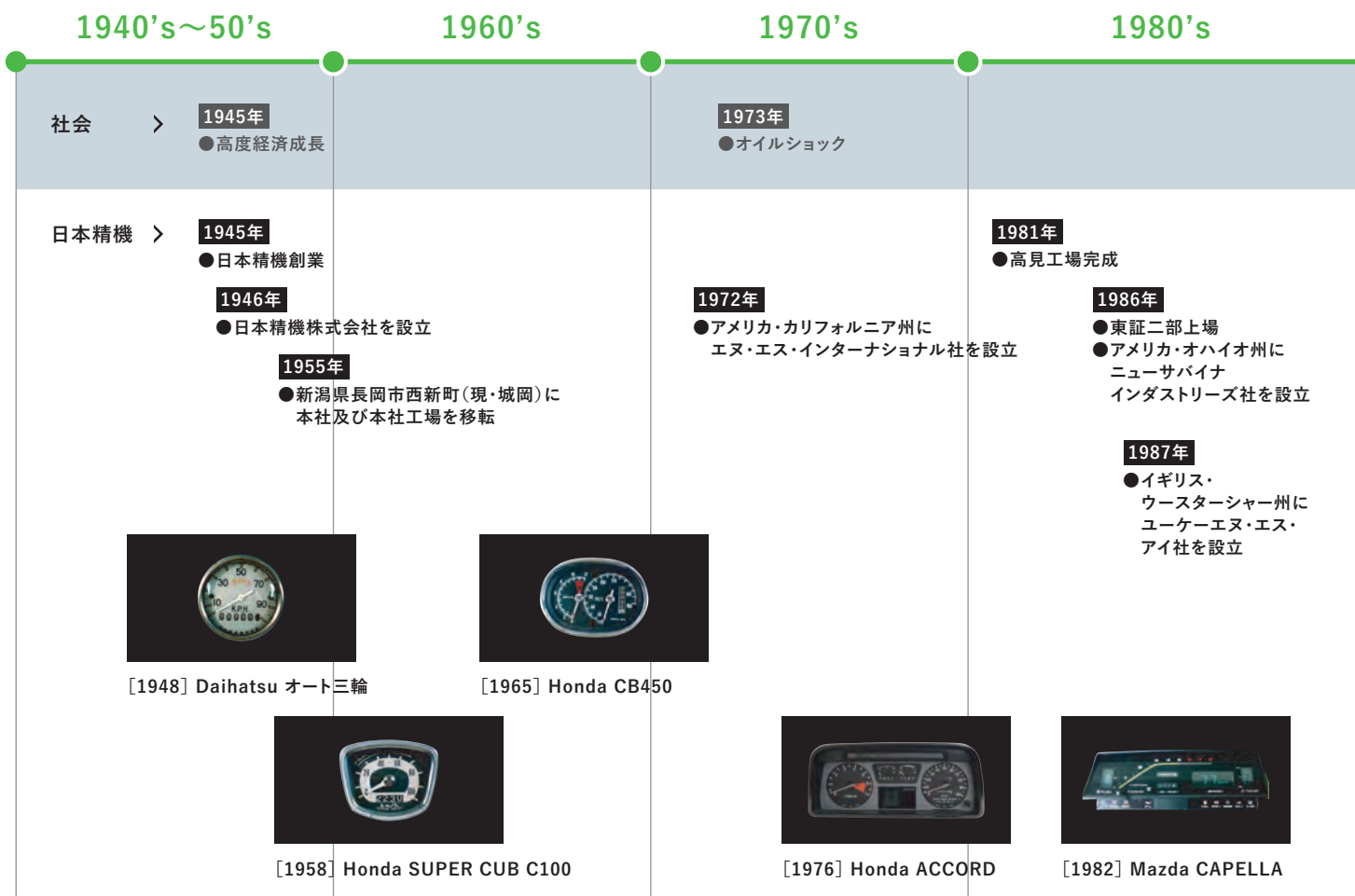
第三者意見

- 49 役員紹介
- 50 第三者意見

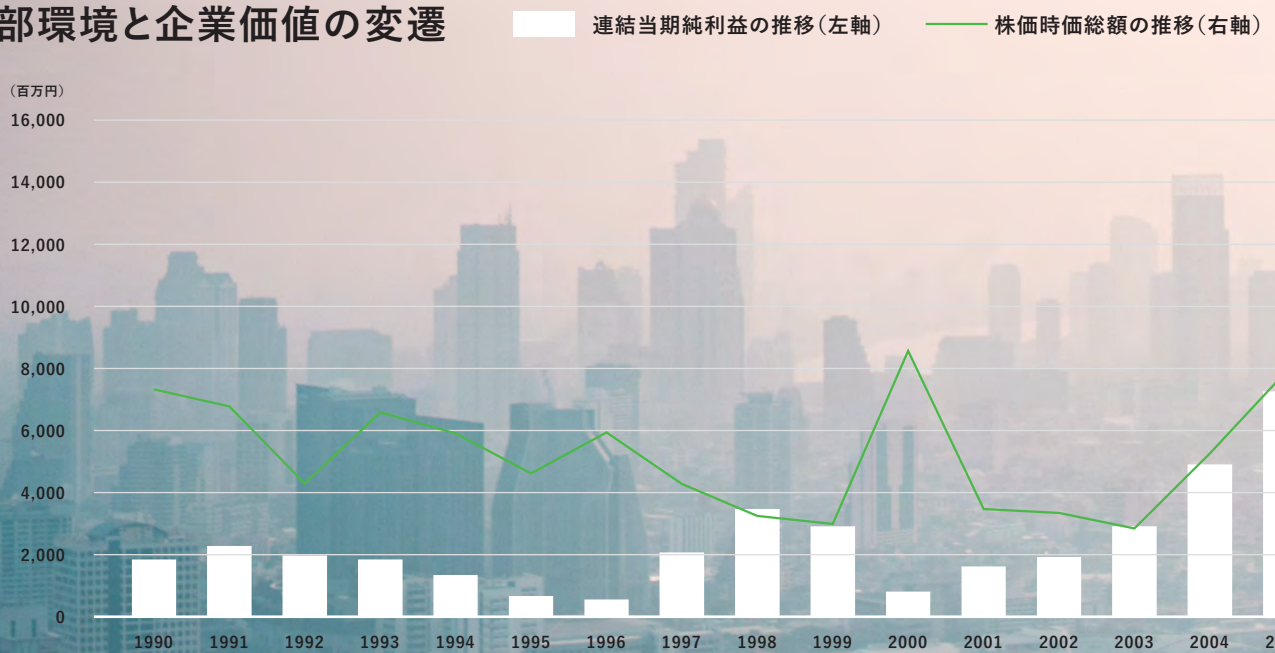
見通しに関する注意事項

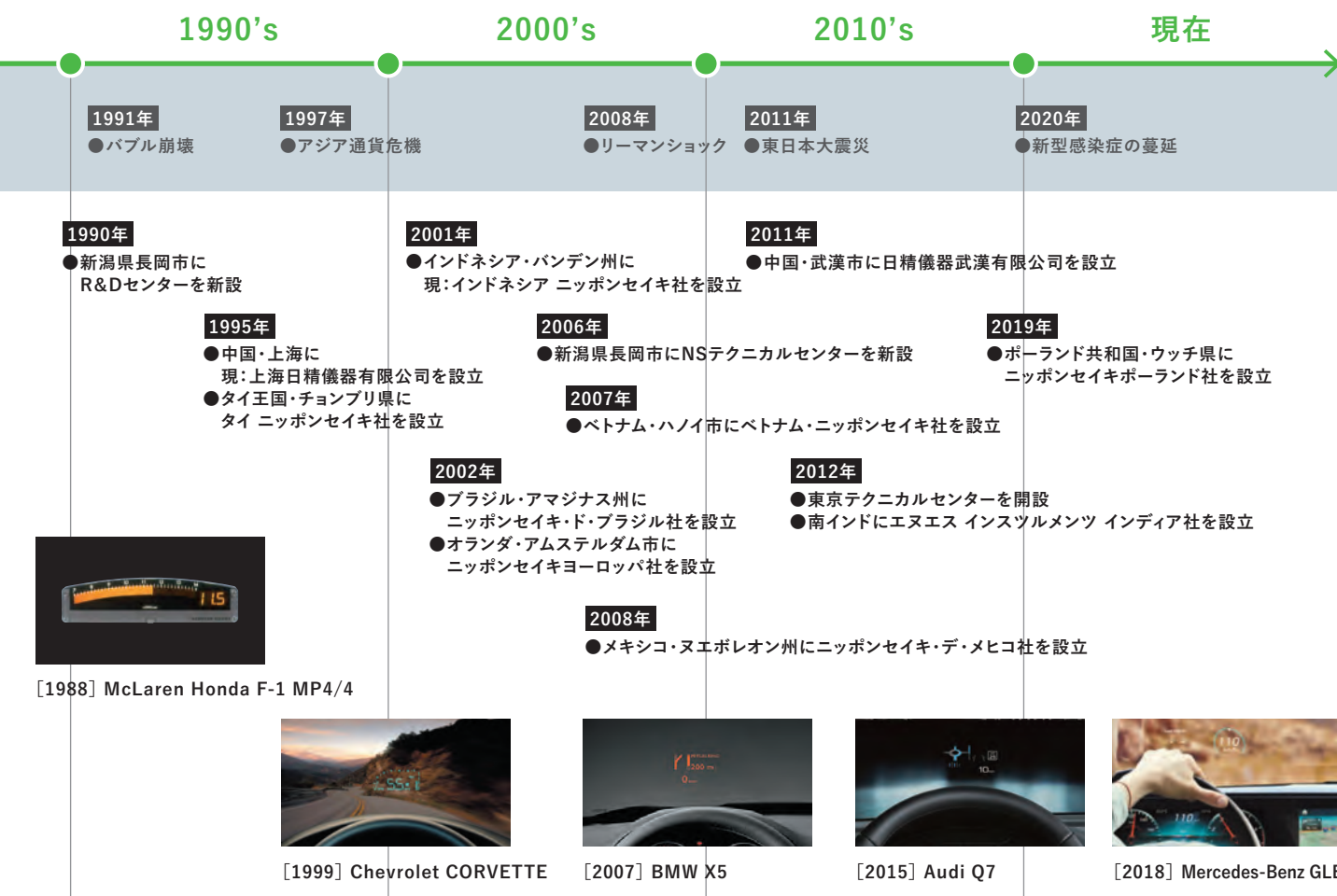
等報告書に記載されているデータや将来予測は、等報告書の発表日現在において入手可能な情報に基づくもので、様々な要因により影響を受けることがあり、実際の業績は見通しから大きく異なる可能性があります。従って、これらの将来予測に関する記述に全面的に依拠することは控えるようお願いいたします。また、当社は新しい情報・将来の出来事等に基づきこれらの将来予測を更新する責任を負うものではありません。

日本精機グループ沿革



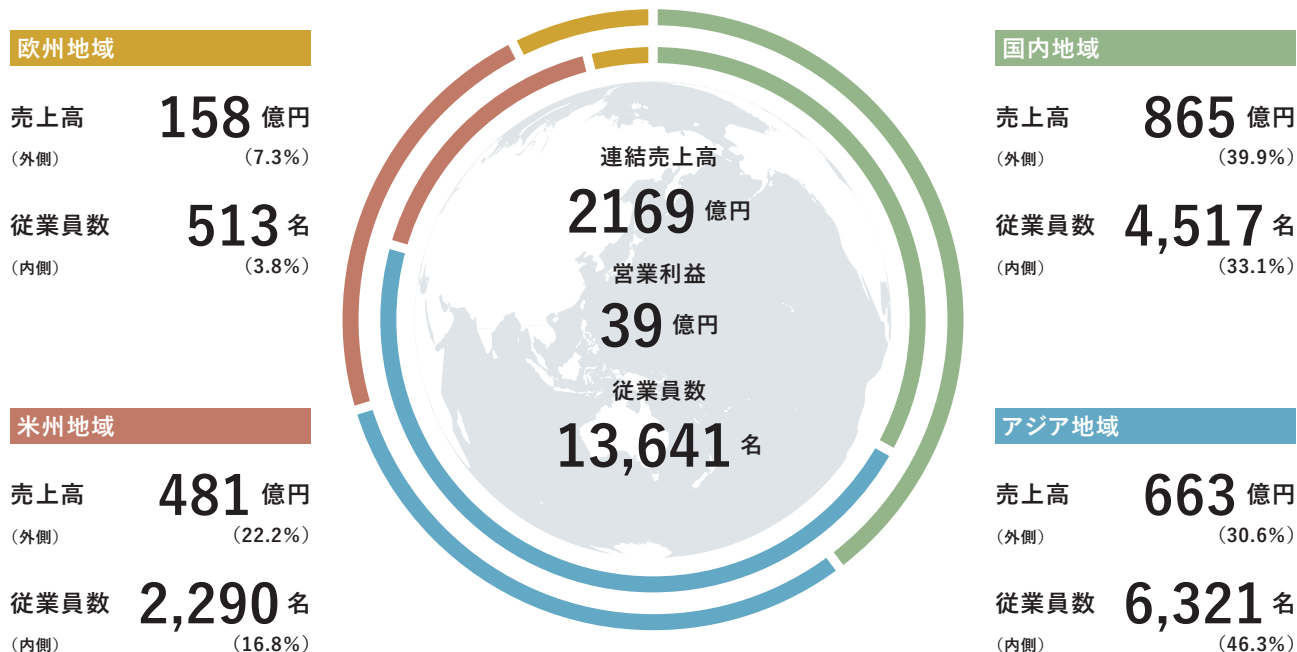
外部環境と企業価値の変遷



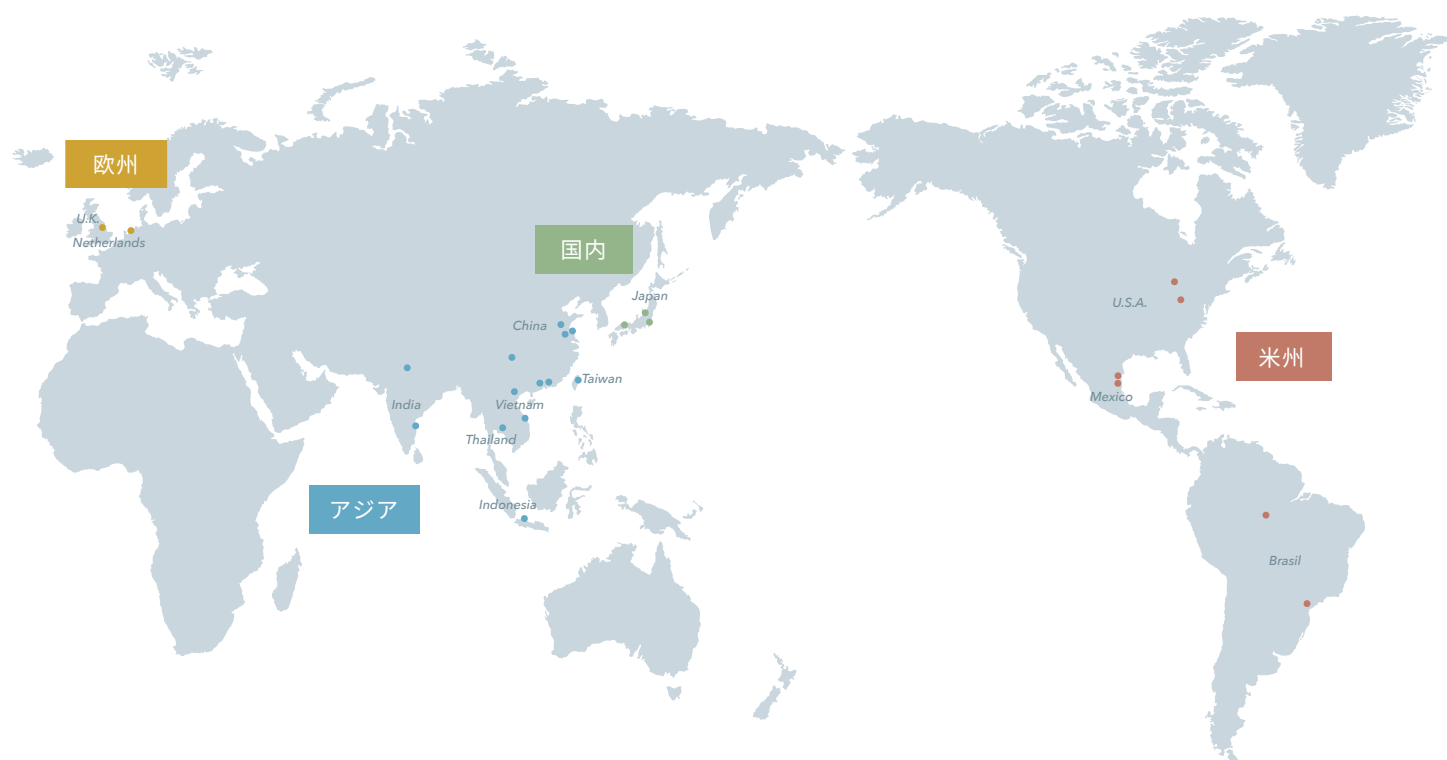


日本精機グループ概況 [2021年3月期]

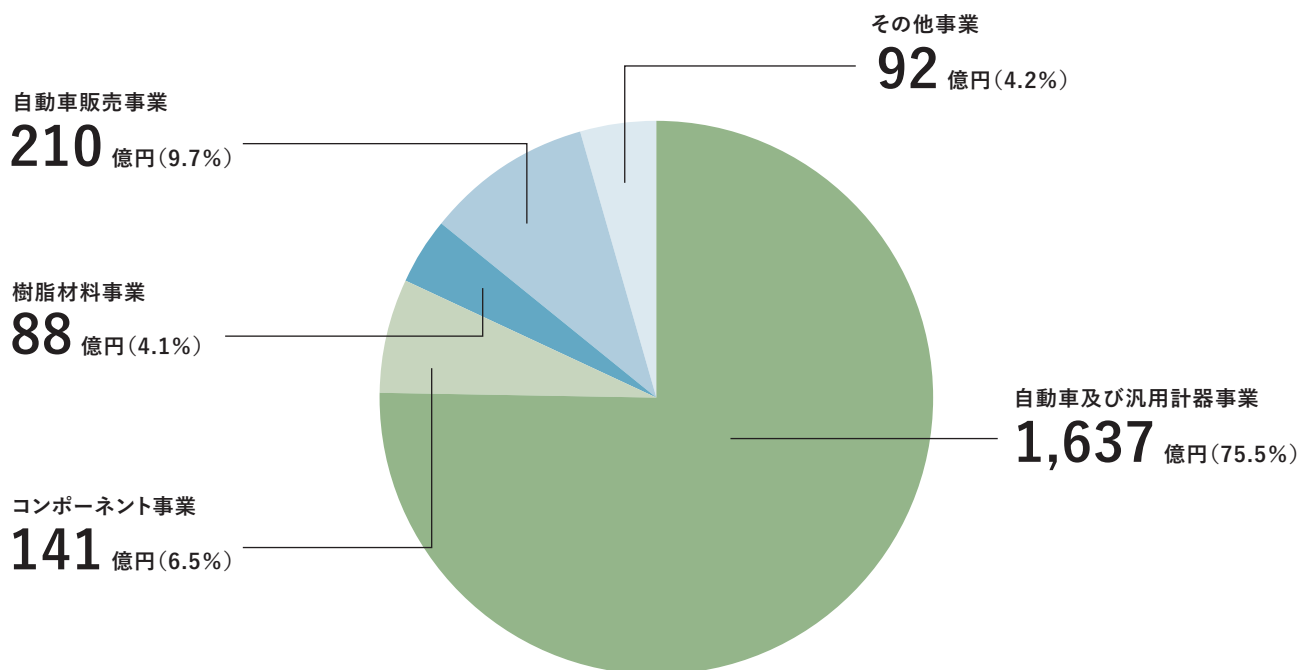
地域別売上・従業員数 (売上: 億未満切り捨て)



日本精機グループネットワーク



セグメント別売上高 (億未満切り捨て)



決算概要と新ビジョン制定

2021年度3月期
決算の概要について

COVID-19の感染拡大による影響は第2四半期以降は回復傾向にあるものの第1四半期における自動車メーカー各社の工場稼働停止や減産に伴う売上と利益減少をカバーできるまでには至らず、対前年同期比で減収減益となりました。

連結売上収益は2,169億26百万円(前期比11.9%減)、営業利益は39億円(同49.1%減)、親会社の所有者に帰属する当期利益は5億17百万円(前期は3億50百万円の親会社の所有者に帰属する当期損失)となりました。

セグメント別では、主力である「自動車及び汎用計器事業」は四輪車用計器を中心に各地域で減少し、売上収益は15.1%の減収となり営業利益28億36百万円となりました。

そのほか「コンポーネント事業」ではOA・情報機器操作パネル、アミューズメント向け基盤ユニット等が減少し6.9%の減収となり、営業損失12億94百万円となりました。「樹脂材料事業」は販売が減少し3.3%の減収となったものの原価改善活動等の効果により53.6%の増益、「自動車販売事業」は新車販売等が減少し5.5%の減収13.6%の減益、「その他事業」は情報システムサービス等が増加し32.1%の増収となったものの50.8%の減益となりました。

今後は車載計器事業を中心とした経営強化とサービスを含む事業間連携による新たなビジネス・価値の創造を追求してまいります。また、確立した原価改善プロセスの確実な実行により経営の体質強化を図ってまいります。

新ビジョンの制定

*Facing the future
Challenge & Change
for 2030*

当社ビジョンとして新たに上記を掲げました。従来のやり方にとらわれない強い挑戦マインドを持ち、未来を切り開くために変化・進化し続けるという強い想いを込めています。

このビジョンのもと、全社員一丸となり、すべてのステークホルダーの皆様に安心・安全、そして感動を提供するトータルソリューションカンパニーを目指し邁進いたします。

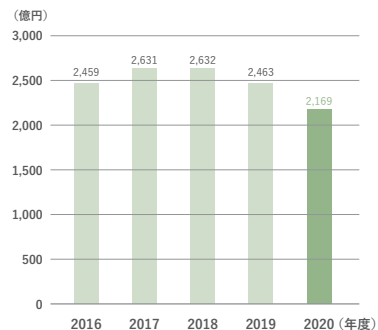
取締役常務執行役員
事業管理本部長/CSR委員長

東 政利

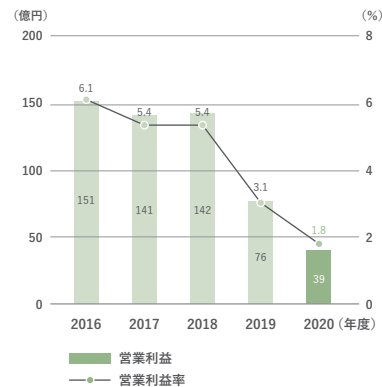
財務・非財務ハイライト [2021年3月期]

財務

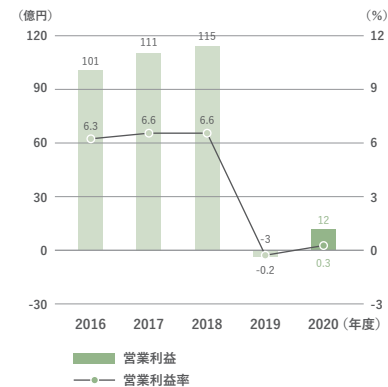
売上収益(億円)[連結]



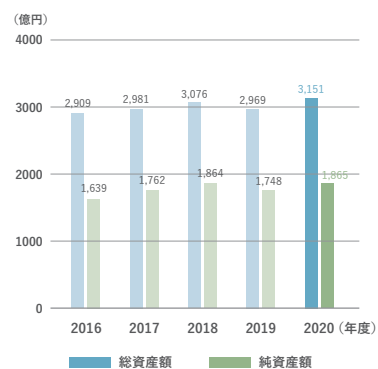
営業利益 / 営業利益率(億円)(%) [連結]



親会社株主に帰属する当期純利益(億円)
自己資本当期純利益率(ROE)(%) [連結]



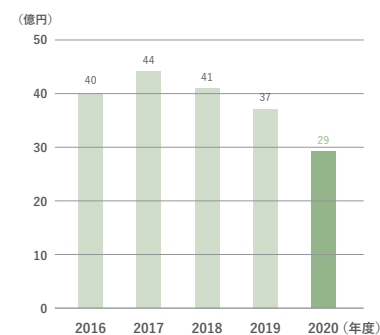
総資産 / 純資産(億円) [連結]



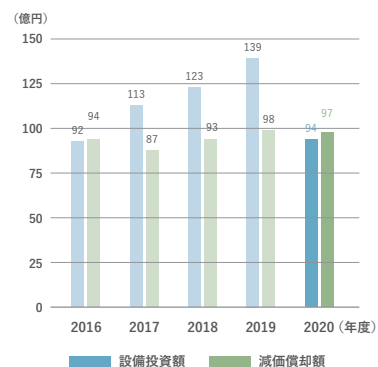
自己資本比率(%) [連結]



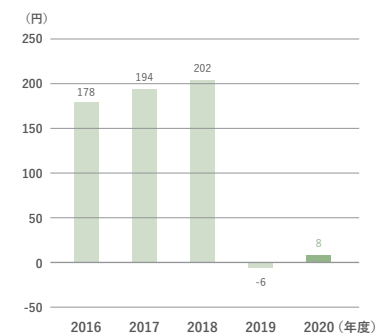
研究開発費(億円) [連結]



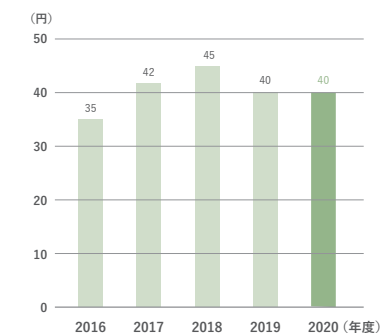
設備投資額 / 減価償却費(億円) [連結]



1株当たり当期純利益(円) [連結]

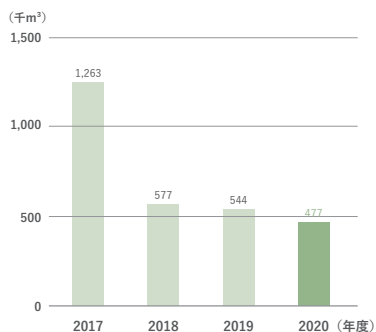


1株当たり配当金(円) [連結]

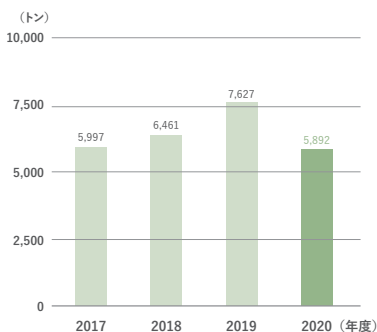


環境

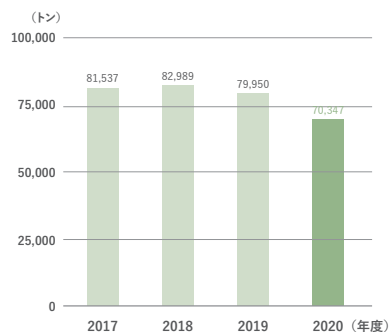
水排出量(千m³) [連結]



廃棄物排出量(トン) [連結]

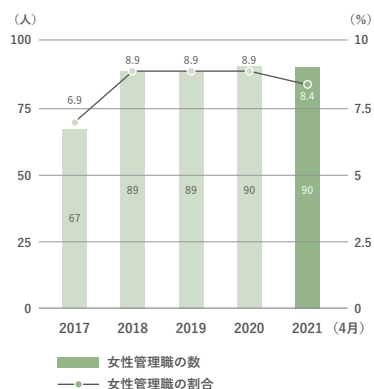


CO₂排出量(トン) [連結]

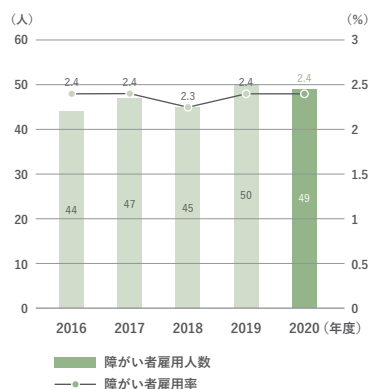


社会

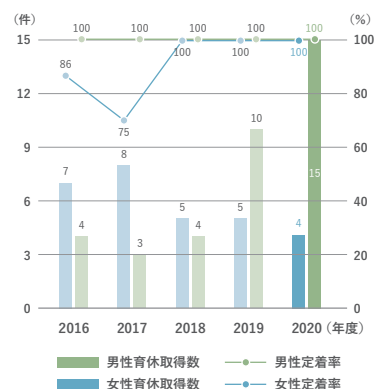
女性管理職数 / 割合(人)(%) [連結]



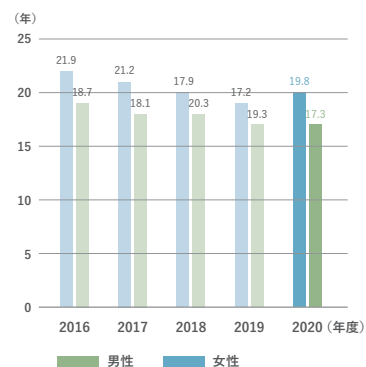
障がい者雇用人数 / 雇用率(人)(%)



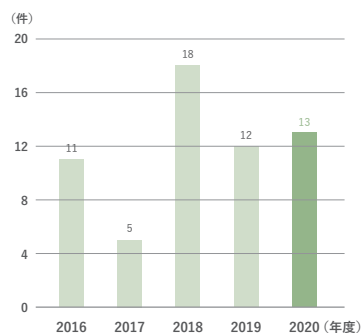
育休取得数 / 定着率(件)(%)



平均勤続年数(年)



労災発生件数(件)



ガバナンス

特許取得件数(件)

